

協立病院だより

NO. 161 2018年1月1日

発行: 京都協立病院広報委員会



高津駅からの朝日

「我が事・丸ごと地域共生社会」という言葉を聞いたことがありますか？今政府・厚労省がしきりに使っています。「住民が、自分たちが暮らす地域について考え、困っている課題に我が事として取り組み解決していく社会」ということだそうです。

一見美しい話ですが、見方を変えると、国・自治体の責任を放棄して、住民の自助努力で何とかせよということになります。「助け合い」や「お互いさま」は大切ですが、それは制度の隙間をうめるもの。社会保障費を削り、その穴埋めに地域住民を「勤労奉仕」させる社会はまっぴらです。

国・自治体の制度改悪を許さず、権利としての社会保障、医療・介護制度

の改善に、ご一緒に取り組む一年にしたいものです。

「子どもからお年寄りまでかかりやすく何でも相談できる病院」。これが本院のめざす姿です。外来はできるだけ幅広く対応するよう努めています。救急指定は取り下げていますが、かかりつけの方は基本的に対応致しますので、具合の悪いときはご一報下さい。

高齢化が進む当地で、本院が入院で特に力を入れているのは、高齢者医療、認知症、総合診療、リハビリです。医師、看護師、リハビリセラピスト、薬剤師、栄養士など、たくさんの職種がチームで一人一人の患者さんの状態をよくするために全力を尽くします。

引き続き、綾部市立病院・福知山市民病院などの基幹病院、診療所、訪問看護、介護事業所、通所リハビリと連携して、地域全体の医療・介護体制の強化に努めます。

「健康友の会」のみなさん、地域に住むみなさんとスクラムを組んで、健康づくりや住みよい地域づくりのための取り組みも進めていきます。ご一緒に頑張りましょう。



院長 門 祐輔

新年あけまして
おめでとございます。
今年もよろしくお願い致します。

「協力ありがとうございました」 医療機関 アンケート 介護事業所 アンケート

よりそい支援連携室が誕生して6年。昨年の秋に近隣の医療機関・開業医の先生方・介護支援事業所・介護福祉施設のみなさんにアンケートをお願いを致しました。その結果の一部をご紹介します。

当院へ患者様・利用者様をご紹介頂いたことが「ある」との回答は、医療機関全体で83%、介護事業所全体で73%でした。これからも紹介したい理由の上位は、「患者様・利用者様に喜ばれた」「患者様・利用者

様が希望される」。紹介したことがない理由では、医療機関・介護事業所共通して「遠方である」「患者様・利用者様が希望されない」が上位でした。

当院への要望や期待では、「ベッドの空き情報の発信」「連携室・外来での医療・生活相談の充実」「紹介患者様・利用者様の迅速な情報提供」が医療機関・介護事業所共通のトップ3。自由記載にもたくさんご記入頂きましたので、今後、院内で改善策を検討していきたいと考えています。

(よりそい支援連携室)

夜勤が可能な 看護師募集

当院では差額ベッド代をいただきず、外来・入院の無料低額診療事業を積極的に実施しています。病気になっても安心して治療を続け、生き生きと暮らしていける…。そのお手伝いを一緒にしていただけませんか？

作業療法士募集

リハビリテーション課では、リハビリテーション体制の充実をめざし、作業療法士を募集しています。回復期リハビリ病棟や、地域包括ケア病床でのリハビリテーションが主な業務です。



お問い合わせ先・・・
看護師：師長室 福林まで
作業療法士：事務長 稲次まで
お気軽にお電話(42-0440)下さい

平成30年4月 病院敷地内に『あやバス』 バス停が設置されます

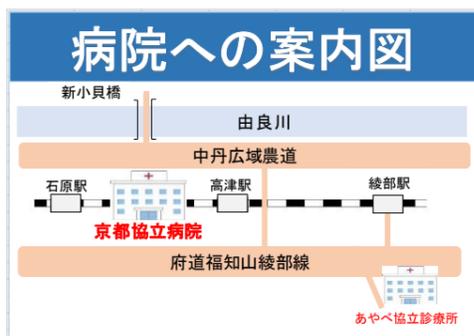
かねてより綾部市へ「あやバス」が病院敷地内に乗り入れできませんでした。か」と相談をしていましたが、ダイヤ改正のタイミングや、敷地内を前進で出られる(バックしない)ようでないことと安全な運行上、無理なことを理由に実施は困難と言われていました。今回、当院より新たに出口を別に設けることを提案したところ、「入口と出口を分けていただけるのであれば、綾部市としても市民の安全確保の立場から、協立病院敷地内に、あやバスのバス停設置をすすめてほしい」とのお返事をいただきました。

工事は年度末に完成するように進め、コーナン薬局様の福知山側出口専用の通路を造り、現在の出入口は入口専用としてバスだけでなく、すべての車両で運用していきます。

ご来院のみなさんの、ご協力とご理解をよろしくお願い致します。

事務長 稲次 豊

☎ (代表) 42-0440 (小児科直通) 42-0025



■JR 高津駅より徒歩 10分 ■駐車場 150台

公益社団法人 京都保健会
京都協立病院
〒623-0045
京都府綾部市高津町三反田1番地
TEL 0773-42-0440
FAX 0773-42-9459
ホームページ
<http://www.kyoto-kyoritsu.org/>

ISO 9001
BUREAU VERITAS
Certification

MS
JAB
1823

ISO 9001 認証取得

待ち時間の短縮にご活用下さい。

診療順番表示(内科・外科)が
ホームページからご覧いただけます。

携帯・スマートフォンからは下記URLで検索してください。
<http://www.kyoto-kyoritsu.org/webcamera/webcamimg.php>

京都北部から総合診療専門医を！

—京都協立病院を基幹病院とする専門研修プログラムが承認—



玉木 千里

京都協立病院 副院長
日本内科学会認定総合内科専門医
日本プライマリ・ケア連合学会指導医
日本リハビリテーション医学会専門医
専門研修プログラム統括責任者

2017年10月に、日本専門医機構の二次審査を経て、京都協立病院を基幹病院とする「京都北部総合診療専門研修プログラム」が承認されました。この新専門研修プログラムには、京都北部に位置する市立福知山市市民病院、舞鶴共済病院、ふくちやま協立診療所、たんご協立診療所の4施設が連携施設として登録されています。

新たに総合診療科が設置

今回新専門医制度の19番目の基本領域として、新たに総合診療科が設置された最も端的な理由は、多くの疾病をもち、多剤を処方されることが多い高齢者が増加している日本において、このような高齢者を効率よく総合的に診る医師がどうしても必要になってきたという時代的社会的要請に答えるためです。私達が、北部完結のプログラムを持つことにこだわったのは、前述のような高齢者に対して適切な医療を提議できる医師を養成するためには、この北部の地域が非常に良いフィールドになるという確信を持っていたからです。

北部地域は都心と比較し、医療資源が少ないため、医師一人ひとりに課せ

られる医療の範疇が非常に幅広いという特徴があります。一方で全てのことや医師で決められるわけではないので、多職種や地域のスタッフとの連携が非常に大切になってきます。多くの医療問題に対処し、地域の医療資源に有機的につなげることが、総合診療医に求められる能力ですから、当然北部地域のフィールドは都心部より総合診療医が成長する上で恵まれた環境にあるということになります。実際にプログラムを整備する上で、いくつかの障壁はありましたが、この北部の地域で優秀な総合診療医を育てたいという強い思いがあればこそ乗り越えることができました。ここに、北部の総合診療医養成プログラムが機構により認証されたことは、私たちの非常なる喜びです。

疾病だけでなく

全人的に理解する

当院は、今の新制度設立に先立つこと10年前、2007年に旧日本家庭医療学会に認定され、現在もプライマリ・ケア連合学会により認可されている「京都家庭医療学センター研修プログラム（基幹施設は上京診療所）」の連携施設として専攻医受入の実績があり

看護・介護学会

私たちの取り組み

- 1 「民医連らしいチーム医療」より「ささえる・つなぐ・みんなの力」をテーマに、第1
- 2 3 回京都民医連看護・介護学会が開催されました。
- 3 京都民医連事業所の看護師、介護職など約250名が参加し、当院からは3演題を発表しました。

ご家族と一緒にいることは、その場限りの処置的な側面から、ご家族が大切な方の死を受け止める最後の時間を支える「心のケア」だと、勉強会を通してエンゼルケアへの姿勢に変化が生まれた報告をしました。

回復期リハビリテーション病棟は「回復期リハビリテーション病棟における、介護福祉士の役割とは」介護福祉士と多職種の違いを描くもの」の演題で、アンケート等も実施した中で医療現場での介護福祉士には、患者さんが入院された時から、退院後の生活までの、長いスパンを見据えた関わりを持つ力が求められて

いて、多職種と協同することでそのケアが行えることを発表しました。当日は、当院が看護研究に取り組み始めた頃からアドバイスを頂いている梅花女子大学の香川由美子教授より講評を受け、次の研究へ繋がるヒントを得ることができました。

これからも、患者さんやご家族の取り巻く環境にいつも目を向けて疑問を持ち、「よくありたい、さらに良くなりたい」の気持ちに寄り添うことや、そのための環境整備に関わっていききたいと思えます。

(看護学会委員会)

外来看護部は「A病院に通院する高齢者の自動車運転状況の実態調査」交通整備が不十分な地域で患者が安全に通院できるための支援を「探る」というテーマで、自動車運転に不安を感じている患者さんに対し、その患者さんが安全に通院できる支援として、地域の代替事業や社会資源、運転免許自主返納制度など、必要な情報をお伝えしながら、多職種と連携・共有できるようなシステム作りの取り組みをまとめました。

4階病棟は「エンゼルケアの意識調査」意識向上を目指した勉強会を試みて」と題して、看護師がエンゼルケアを



第1回「ほっこりカフェ」を開催しました。もの忘れが気になる方や、ご家族のことが心配な方など、9名の方にご参加頂きました。お好みの飲み物を注文して、友の会のボランティアさんに入れて頂いた美味しいコーヒーや紅茶でひと息・・・。

門院長の「もの忘れ」のお話を聴いて、自己チェック。歌カルタや黒ひげゲームで盛り上がり、どのテーブル



ます。当院の専攻医研修では、一人の患者さんを継続的に診療し、疾病だけでなく家族や社会的背景をも含めて全人的に理解すること、またチーム医療を大切にし、リーダーシップやプロフェッショナルリズム精神を育むことを目標として研修指導を行い、地域に貢献できる総合診療医を多く輩出してきました。これまでに得た知識と経験を活かし、これからは基幹病院としてより多くの優秀な専攻医を養成して参りたいと考えている次第です。

最後に、「京都北部総合診療専門研修プログラム」が承認されるにあたって、連携施設の先生方ならびに多くの皆様のご協力をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。この場をともに患者中心の医療、地域に貢献できる医療が提供できるよう精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



も歓声や笑い声でいっぱい…。

ご主人を介護されているご家族さんは、「家では笑うことがないけど、今日はようけ笑わしてもらって楽しかったです。また、来させてもらいたい。」と涙を流してお話されていました。

『ほっこりカフェ』では、もの忘れが心配な方や、そのご家族の方に気軽に足を運んでいただき「ほっこり」として頂ける時間と場所をご用意できたかと考えています。

参加をご希望される方は、外来看護部までお気軽にご連絡下さい。